令和６年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（２月 25 日実施）	総合評価（３月 18 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程学習指導	児童・生徒の「生きる力」を育むために、資質・能力の三つの柱に基づく12 年間を見通した系統的、発展的な指導内容を具体的に組織、配列し、特色ある教育活動を展開する。	①児童・生徒が「何のために学ぶのか」各教科等を学ぶ意義や校外学習等の目的を整理し系統的、発展的な指導に当たる。 ②個別教育計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげ、特色ある教育活動の展開に生かす。	①各学部の運営要項やシラバス等で各教科等の内容や時間配分、校外学習等の目的を整理し、教職員間で共有する。 ②各学部やグループが個別教育計画の実施状況の評価を根拠に授業改善や必要な人的・物的資源の確保などの検討に当たる。	①児童・生徒の実態に基づいて教育の目標や内容を整理し、学部内や各学部間で共有するとともに、保護者等に説明ができたか。 ②各学部やグループが連携・協働し、個別教育計画の実施状況の評価に基づき、教育課程編成に創意工夫を加えたか。	①学部縦割りの教科会を５回実施。全校でシラバスの作成に当たり、作成の目的や活用の具体、項立などを教職員間で共有した。教育の内容の充実に向けた学習形態の工夫や、自分専用端末を活用した取組を保護者等に報告した。 各学部において各教科等の単元を通して身に付ける力を整理し、系統的な指導につながった。 ②児童・生徒の学習状況を評価し、教育課程の実施に必要な人的、物的資源の確保を行った。 個別教育計画について事例研修会を年間３回実施し、授業改善や指導体制の見直しを図った。	①各学部が各教科等で身に付ける力を明確にし、系統的な指導内容や課題、の整理をしていく。 ②個別教育計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていく。	・経験の浅い教員が理解を深めるシステムに関しても明記できると良い。 ・校外学習について、整理や検討を進めた具体的なプロセスが知れると良い。 **＜保護者アンケート＞**「何のために学ぶのか」「学びたい」「わかる」「できる」がつながる授業が行われている。そう思う（R6　71%） ・具体的に何をどうしようとしているのか、児童・生徒が変化していく様子や成果、そのような支援が他の児童生徒にも波及していくのか知りたい。 **＜保護者アンケート＞**個別教育計画を活用した授業づくりがされている。そう思う（R４　73%、R５　83％、R6 79%）	①基礎的基本的な学習を充実させるとともに、より発展的な学習へとつながる場面や環境設定を図る。 各教科等で身に付けた力を社会や日常の場面で発揮できるよう、校外学習等の指導・支援に保護者や地域と協働で取り組む。 ②地域の特徴を生かした人的、物的資源の確保と連携・協働を進める。 人やものとの関わりを評価することで、学習上、生活上の支援の工夫や、興味・関心を引き出す教材研究につなげる。	①各学部がシラバス等に基づき、児童・生徒が各教科等で身に付けた力を地域の方との関わりの中で発揮できるよう、発展的な指導の充実を図る。 ②有識者の視点を加えながら、個別教育計画作成に係る話し合いのプロセスを重視し、具体的、客観的に目標や支援の方法等を検討する。
2	（幼児・児童・）生徒指導・支援	児童・生徒が自己を肯定的に受け止め「互いを尊重する心」を育むために、児童・生徒が抱える課題や困難をチームで確実に把握し、必要な支援の充実や授業改善の推進を図る。	①登校や集団への参加が難しい児童・生徒や保護者の心情を理解し、適切な支援や関係機関との連携につなげる。 ②自分専用端末の効果的な活用方法やコミュニケーション支援の場面等を教員間で共有し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	①専門職とともに自立活動の観点から児童・生徒の発信を確実につかみ、家庭や関係機関と連携・協働して支援の手立てを講じる。 ②-ア個別教育計画に基づき自分専用端末を活用し、コミュニケーションや情報活用能力の育成を図る。 ②-イ実践事例を「１人１台端末活用ガイドライン」にまとめ、児童・生徒が自ら手がかりに気づき主体的に学ぶ方法を、校内の学び合いを生かして共有する。	①チームで講じた支援の手立てや方法、配慮が、登校や集団参加が難しい児童・生徒の心理的な安定や人間関係の形成に寄与したか。 ②-ア本人・保護者とともに自分専用端末を活用した支援の手立てや方法を考えることができたか。 ②-イ校内研究の取組が、教職員のＩＣＴ活用指導力の向上を図り、児童・生徒主体の授業づくりに寄与したか。	①校内でケース会や外部機関と連携して安心安全な支援方法について検討し通学につなげた。 学校生活アンケート等から情報をつかみ、緊急でいじめ防止検討会議を開催するなど、生徒の安全確保を第一に、迅速な対応に当たった。 ②-ア実態に合わせた環境設定を行い、授業内に自分専用端末を用いた活動を多く取り入れた。本校とのオンライン授業や休業期間中に端末を利用した課題提示を実施した。 ②-イ研究研修班や情報広報班と連携を図り、自分専用端末活用ガイドラインを作成した。学部研究や研修会で ICT 機器を活用した実践を共有し、計 60 以上の活用の実践例にまとめた。	①ルールや環境設定を工夫し、集団の中で個に対応を合わせる支援を行う。 チームで相談する環境を整え、不登校、いじめ等の未然防止に努める。 ②個の発達段階や実態に合わせ、具体物、写真・イラスト等のシンボル、ICT 機器などにより、児童・生徒の見通しや考える力につながる支援の充実を図る。	・不登校に関して、心理職や外部機関との連携等、具体的に書いた方が良い。 ・いじめがある・ないだけでなく、どのようなアプローチをしたのかわかると良い。 **＜保護者アンケート＞**担任、学部長、相談、自立活動教諭などと協力して、個のニーズに応じた指導・支援が行われている。そう思う（R４　58%、R５ 62%、R6　71%） ・『主体的・対話的な学び』は相模原支援学校での学びにどうつながるのか、達成状況や課題がわかりにくい。 ・授業で自分専用端末を効果的に活用した活用紹介に繋がると良い。 **＜保護者アンケート＞**自分専用端末を効果的に活用した授業が行われている。そう思う（R４　32%、R５　34%、R6　41%）	①通学につなげる支援だけではなく、本人・保護者が社会との関わりを持ち続ける支援を充実させる。 集団の中で個に対応を合わせるために必要な方法や手立て、配慮を、指導に関わる教員チームで共有して支援に当たる。 いじめの未然防止の観点から児童・生徒の家庭環境や愛着形成などの実態を踏まえたチームによる支援の充実を図る。 ②コミュニケーション能力や情報活用能力を育てるだけではなく、これらの力が身につくことで各教科等の学びが充実する、という視点に立ち授業改善を推進していく。	①不登校支援は、関係機関（SSW 等）との連携を図り、役割を整理する。 集団の中で個に対応を合わせる方法や手立て、配慮の充実を図る。 いじめへの対応は、児童・生徒の家庭環境や愛着形成などの実態を踏まえたチームによる支援の充実を図る。 ②児童・生徒自身が「考える力」「学ぶ力」を身に付けるための教材研究の充実を図り、コミュニケーションや情報活用能力を実生活や授業場面に生かす。
3	進路指導・支援	地域の中で豊かに暮らし、働くことにつながる教育活動を展開するために、地域の関係機関との連携・協働の充実を図る。	①児童・生徒が学びを地域での生活に生かそうとするために、他者との協働による学びの充実を図る。 ②地域の関係機関との連携・協働の充実を図り、児童・生徒の地域の中での暮らしや、働くことにつながる教育活動の展開に生かす。	①-ア個別教育計画を活用し児童・生徒が他者と協働して「考え・わかり・できる」よう必要な支援を保護者や実習先等と共有する。 ①-イ他者との協働を軸に各教科や実習等の目的や内容、指導形態等の見直しを図る。 ②進路に関する学習や保護者対象の勉強会等を、地域の関係機関とともに企画し児童・生徒の将来の生活や必要なスキルと関連づけて指導・支援の充実を図る。	①-ア個別教育計画に、人や物との関わりの内容を記載し、客観的アセスメントにより必要な手立てや方法を講じることができたか。 ①-イ児童・生徒が学習で身につけた力を、社会や職業生活で活用する場面を創りだすことができたか。 ②進路に関する学習や保護者対象の勉強会等を、地域の関係機関とともに企画・開催し、教育活動の展開に生かすことができたか。	①-ア人や物との関わりの目標を設定し、アセスメント結果により必要な支援や手立てを講じ、保護者や実習先等と共有することができた。 ①-イ実習のねらいに「実践的体験的な学習」「地域社会への参画」の視点を盛り込み、作業内容や指導形態等の見直しを図った。 ②外部講師を招いた授業（25 回）、教員研修（３回）、保護者対象の進路説明会（年６回）、夏季休業中の施設見学会（福祉施設３か所、特例子会社１か所）高等部１、２年の職業体験（２回）、卒業生講話等、多彩な進路に関する学習会を実施し、教育活動の発展に活かした。	①-アアセスメントを活用し、保護者とともに、必要な支援や環境調整等を検討する。 ①-イ地域や人の役に立ち必要とされる、社会とのつながりがある学習場面を設定する。 ②職業での学びを地域で活用する場面をつくる。 小・中学部段階で育てたい力についての共有、高等部へのつながりを意識した指導を行う。	・学びを地域での生活に生かすには、発信を強化し、地域の人に広く知ってもらえるようにすると良い。 **＜保護者アンケート＞**学習で身につけた力を地域社会や職業生活で活用できるよう指導・支援が行われている。そう思う（R４　77％、R５　49％、R6 63%） ・様々な機会が単発で終わらずに、継続するもの等整理できると良い。 ・どのような力を付けたら良いのか、その力を身につけるために、どのような支援をしたら良いのか、教員も保護者も早い段階から、卒業後のイメージを持つことができると良い。 **＜保護者アンケート＞**進路に関わる情報を発信している。そう思う（R４ 51%、R５ 53%、R6　75%）	①-ア居住地交流や実習等の手立てにつなげた成果を踏まえ、交流校や実習先の方と児童・生徒の実態を共有し必要な支援の充実を図る。 ①-イ基礎的基本的な知識及び技能の習得につなげた授業の成果を踏まえ、各学部が地域連携班と連携し、身に付けた力の活用を図る場面を設定する。 ②保護者対象の進路に関する座談会等の成果を踏まえ、保護者の声や家庭での生徒への関わりや様子の変化、学校での活動に生かしたことなどを拾い上げ、学習の充実を図る。	①児童・生徒の発達の理解や得意を伸ばす支援の手立て等、地域の方々へ発信し、学びを地域での生活に生かそうとする児童・生徒の姿につなげる。 ②児童・生徒や保護者、卒業生、事業所の方々の声を拾い上げ、担任等と共有する。 職場選択支援のサービス開始を見据え、本人・保護者が進路先を見学が充実するよう、事業所協会等に働きかけ調整を図る。

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （２月 25 日実施）	総合評価（３月 18 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域の関係機関が積極的に学校運営に参画し、創造的な教育活動を展開するとともに、児童・生徒が地域の小・中学校等で安心して学べる教育環境を構築する。	①地域の関係機関の積極的な学校運営への参画をねらい、児童・生徒の地域での学びや暮らしの充実につながる創造的な教育活動を展開する。	①-ア学校運営協議会の切れ目ない支援部会と連携・協働し児童・生徒の地域での暮らしに必要な地域との協働の仕組を構築する。	①-ア児童・生徒が地域の中で「人と関わる力」を育み、地域の中で暮らせるよう、地域との積極的な協働を図ることができたか。	①-ア夢の丘小学校の利用開始や麻溝公民館の利用、ボランティアサークルとの協働を通じて、児童・生徒が人と関わる力を育む授業を実践した。原当麻駅周辺の美化活動や校外清掃活動を定期的に行うことで、生徒が地域社会に貢献する態度を養うことができた。	①-イ日常的に交流する機会を検討していくとともに、地域への発信、協働を進めていく。	・最終目標が何で今どの辺のステップなのか具体的にわかると良い。 ・地域や企業が「自分たちも支援学校の子どもたちを育てている」という思いを持てるような取組ができると良い。 ・橋本高校と相模原支援学校の今年度の交流はとても良くできたと感じる。 **＜保護者アンケート＞**地域資源の積極的な活用を図っている。そう思う（R6 52%）	①児童・生徒と関わる地域の関係機関の方の意見や感想を得た成果を踏まえ、地域や企業の方々とともに児童・生徒を育てている、という思いを持てる創造的な教育活動の展開を図る。	①児童・生徒が役に立ち必要とされたときの喜びや自信につながる姿を、地域の方々に知っていただき、学びを地域での生活に生かそうとする活動を一緒に創造する。
				①-イ橋本高校と分教室との日常的な交流や共同学習の充実を図るために、自立活動教員との連携や、進路指導・支援に係る情報交換等を活発に行う。	①-イ２校連絡会等において、互いの専門性を生かした活発な協議を行うことができたか。	①-イコミュニケーションボード等を活用した交流で、生徒同士が交わる機会を増やした。教員間の情報交換や２校学び合いを年３回実施した。	①-イ交流及び共同学習の目的を両校で確認し、生徒の相互理解を深めていくための学習や場面、教員間の学び合い等を検討していく。		①-イ交流及び共同学習の目的を整理した成果を踏まえ、生徒同士の相互理解につながる取組の充実を図る。	①-イ互いの専門性を生かした２校学び合いを通して、生徒主導による日常的な交流を企画し、生徒主体の活動への発展を図る。
			②児童・生徒が地域の小・中学校等で安心して学べる教育環境を構築するため、互いの専門性を生かした組織的なセンター的機能の充実を図る。	②地域の小・中学校等における交流及び共同学習や巡回相談等において、互いの専門性を生かし、多様な教育的ニーズに対応できる教育環境を構築する。	②センター的機能は、本校の児童・生徒が小・中学校等で学ぶ上で必要な、特別支援教育の支援体制構築に寄与したか。	②巡回相談の相談シートを改訂し、専門性を生かした多様な教育的ニーズに対応できる教育環境の構築につなげた。（巡回相談ケース数 100 ケース）	②地域の学校の巡回相談やケース会議に班員が参加できるよう、校内体制を見直し人材育成につなげる。	・相談ガイドや相談シートについて、どの部分が課題で何をどうしたのか明らかにした方が良い。 **＜保護者アンケート＞**障がいのある子どもへの支援の専門性を生かして、地域の学校などの支援に貢献している。そう思う（R４　40%、R５　48%、R6 57%）	②教育相談活動ガイド等の見直しを図った成果を踏まえ、地域の学校の特別支援教育に係る校内支援体制の充実を図っていく。 センター的機能の発揮や地域の方とのふれあいについて、目的を整理していく。	②全教職員で、児童・生徒の実態把握や見立てる視点を共有し、センター的機能に携わることの共通認識を図る。 地域の学校の校内指導体制構築について、市町教育委員会とともに検討を進める。
5	学校管理学校運営	児童・生徒が安全に安心して学べるよう、専門性向上に向けた人材育成を充実させ、持続可能な教育環境の構築を図る。	①専門性を向上させ、児童・生徒の人権を尊重する上で必要な人材育成の充実を図る。	①年次研修や教材研究等を活用し、教職員が自ら学びをデザインし学び続ける取組を組織的に行う。	①人材育成の目標を設定し教職員が主体的に学べる環境（研修形態）を用意することができたか。	①随時情報提供を行うことや、他学年に入る機会を設け、児童・生徒理解を深めること、外部講師を招いて人権啓発や事例検討を行った。	①学部間の学びあいや教職員が主体的に学べる校内研修を充実させ、特に教職に必要な素養の育成を図る。	・人材育成に関しては OJT だけでなく、チーム支援をしていけると良い。 **＜保護者アンケート＞**子どもたちの人権が尊重され、安心して任せられる。そう思う（R４　76%、R５　78%、R6 77%） ・下校時刻の変更により、教員の働き方改革に繋がった。保護者や関係機関へも丁寧に説明を行ってきている。今後は、子どもたちの学びの保障や、保護者の負担はどうなのか、検証する必要がある。 **＜保護者アンケート＞**先生たちが生き生きと子どもたちに接している。そう思う（R6　74%）	①授業研究協議におけるファシリテーションや、学部とグループの連携協働など、児童・生徒の成長につなげるために必要な素養を育み人材育成を図る。	①小中高等部を設置する強みを生かし、授業やケース会などで自由度のある話し合いを行う。 教員同士が認め合い、支え合い、互いの得意をのばすことを大切に取り組む。
			②さまざまな働き方に配慮した業務改善を進め、教職員の心身の健康の保持増進を図る	②学校運営協議会等で業務改善の効果検証を行い、緊急に取り組む課題を整理し対応に当たる。	②教育課程改善で生み出された時間の活用方法について、課題を整理して今後の展望を提示できたか。	②課業中に教材研究時間を設定し、多様な働き方の教職員が仕事をしやすいように取り組んだ。下校時刻が早くなったことで、児童・生徒についての話し合いや、授業打合せ、教材準備等を行う時間の確保ができ、児童・生徒理解を深めることにつながった。	②チームで業務に取り組めるよう環境の整備を行う。		②すべての教職員の教育課程改善への積極的な参画により、児童・生徒の成長につながるモチベーションを高め業務に当たる	②「持続性」「共有」をキーワードに、チームでアセスメントや客観的なデータの収集に当たる。
			③老朽化の対応や児童・生徒の学びの充実につながる機能改善に組織的、計画的に取り組む。	③全校の意見を吸い上げ、優先度の高い修繕や学びの充実につながる機能改善に教育局と連携し取り組む。	③組織的、計画的に老朽化対応や機能改善を行うことができたか。	③要望をリスト化し、優先順位を付け、効率的に予算執行を行うことができた。	③引き続き計画的に老朽化対応や機能改善を行う	・保護者が校内の老朽化に不安を感じていると結果に出ている。そのあたりをどうとらえていくのか。 **＜保護者アンケート＞**校内の老朽化対応や機能改善をすすめている。そう思う（R４ 59%、R５ 56%、R6　44%）	③児童・生徒の安全や主体的な学びにつながる視点で老朽化対策や機能改善に当たった成果を踏まえ、より実態に合った学習環境の改善を図る。	③教室配置プロジェクトを中心に児童・生徒の様子や意見を取り入れながら、児童・生徒主体の活動につながる学習環境の改善を図る。
			④地域と協働し、防災教育や食育、通学支援等の充実を図る。	④地域の方と協働して防災訓練を行うなど、丁寧な情報発信と意見収集を行う。	④地域と協働し防災教育や食育、通学支援等の充実を図ることができたか。	④通常の避難訓練やシェイクアウト訓練に加え、避難訓練、伝達訓練、緊急下校訓練、福祉避難所設置訓練を一連の流れで行う「防災研修」を実施した。 給食で使われている食材に興味を持ち、アプリを使い栄養素の確認をしたり、自宅で調理をしたり食材や料理への関心が高まった。	④地域の方と協働した防災訓練の実施にむけて、教職員の防災意識を高め、実現可能な具体的な形を検討する。また、保護者や地域へ情報発信を行い、災害時への備えとする。	・地域と学校とが防災面での情報共有の場について考えていけると良い。 **＜保護者アンケート＞**地域資源を活用して、安全な教育活動を行っている。そう思う（R6　66%）	④児童・生徒が学びを人生や社会に生かそうとする視点で取組を整理した成果を踏まえ、地域の方々に児童・生徒の活動の様子を知っていただく中で、地域で支え育てていく協働の充実を図る。	④地域連携班を中心に地域の防災イベントや高齢者学級等とのつながりを持ち、地域の方々の考えを共有しながら、協働の充実を図る。